

<金標準、雇用統計、中東情勢を受けた金利高の洗礼・・・>



(出所：オアシス)

週末の雇用統計で非農業部門就業者数が事前予想の 8.9 万人増を大きく上回る 17.2 万人増と改善し、4 月の 11.5 万人増も 17.9 万人増へ上方修正するなど、3 ヶ月平均で 17.8 万人となるなど、ハマック・クリーブランド連銀総裁は雇用統計を受け「完全雇用に近い状態にある」と認識を示すと同時に、「FRB は近く利上げを実施する必要性に迫られる可能性がある」と述べている。またイランがイスラエルに停戦以来のミサイル攻撃を実施し、イスラエルも報復攻撃を行うなど中東情勢も混乱を見せている。そのため債券市場でも売りが膨らみ、一部の米国債利回りは 2025 年初頭以来の高水準を記録するなど、12 月までに利上げ確率が高まりを見せている。そのため金利を生まない金にとって金利上昇は悪材料となり、NY 金は今年の上昇分を消し、金標準先物も今年始値 22599 円に近づく値動きを見せている。ただ 10 日の消費者物価指数の発表で市場の思惑通りの利上げ観測が高まらなかった場合は、巻き戻しの動きを強めて来る可能性は高まると思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が切り下げ、シグナルは維持している。RCI は短期が下げながら、長期も切り下げている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジを下回るも乖離の拡大で 23100 円に向けた自律反発に注意が必要に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,370,000 円(2026 年 6 月 8 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 102,960 円(2026 年 6 月 8 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>